



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2019年12月23日]

第114回映画大使「ぼくらの7日間戦争」

- ・ 期日 令和元年12月13日(金曜日) ※公開初日!
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

昭和60年に出版され、昭和63年に実写映画化もされた宗田理の同名ベストセラー小説を、アニメーション作品『ドリフェス!』など話題作を手がけてきた村野佑太監督が新たにアニメーション映画化した青春ドラマ。

原作は、昭和60年に宗田理により書き下ろされると、当時の中高生を中心に熱狂を生み、ベストセラーとなっていった。

声の出演は、気は弱い、豊富な知識で大人に立ち向かう主人公・鈴原守を初主演映画『君の隣をたべたい』をはじめ、多くの作品に出演し活躍している北村匠海が、守が想いを寄せる千代野綾役には、NHK朝の連続テレビ小説『べっぴんさん』のヒロインや、映画にも出演している芳根京子が担当している。さらに、実写映画版から30年後の中山ひとみ役を、実写映画で同役を演じた宮沢りえが務め、他にも、主人公の仲間たち役として、アニメーション界の今を支える実力派声優が名を連ねている。

いつもひとりて本ばかり読んでいる、鈴原守は、隣に住む幼馴染の千代野綾に片思いしていた。そんな綾は、1週間後に父親の都合で東京へ引っ越すことになる。17歳の誕生日は、この街で迎えたかったと願う綾の本音を守が聞いたことをきっかけに、守を中心に物語が動き出す。

舞台を令和2年の北海道に移し、廃工場で思いがけない事件に巻き込まれた高校生たちが、大人たちからさまざまな妨害を受けながらも工場に立てこもり、仲間を守ろうと戦い抜いた7日間を描き出す。



(C)2019 宗田理・KADOKAWA／ぼくらの7日間戦争製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ★ *いろいろな方に薦めたい、凄くまっすぐで、綺麗ないい作品だなと感じました!*
- ★ *30年前の作品に比べていろいろな所で今風になっていましたね!*
- ★ *想像以上に見応えがありました!*
- ★ *見入ってしまいました!*
- ★ *綺麗な映画だなと思いましたね!*
- ★ *子どもたちの純粋さがわかった作品でした。*
- ★ *とてもおもしろかったと思います!*
- ★ *アニメ作品ならではの演出が良かったと思いますね!*
- ★ *親子でも観ていただきたいなとも思いました!*



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

チラシをみまして、確かに30年前に宮沢りえさんの主演の映画があったなと思いながら観ていました。私は、その作品は観ていませんでした。

この作品を観まして、その内容に驚きましたね。

また、SNSは使い方によっては、危険なものにも、便利なものにもなるのだと思いましたね。一つの書き込みで知られては困る事が拡散してしまう事もありますし、逆に書き込みをする事により、良い結果になる事もあるもののだと思いました。

この7日間で廃工場に行った高校生たちが、お互いをより一層わかりあえて良かったのかなとも思いましたね。

子どもの頃は、秘密基地のようなものを作りがりますよね。私も、近くの山に作ったな、など思い出しながら観ていました。

Bさん

30年前の作品『ぼくらの七日間戦争』は、実写版でその当時でもレトロなイメージでしたが、今回の作品はスマホを使っていたり、SNSなどを使っていたりして、今風の作品になっているなと思いながら観ていました。特にSNSのいい所と怖い所を上手く出していたなとも思いましたね。

「青春だな」と思っていて、「みんなこういうときがあったよね」、と思いながらドキドキしながら観ていました。

観終わりました、廃工場に行った高校たちのその後が知りたいなとも思いましたね。

若い方だけでなく、昔の作品を観た方が今作るとこうなるという事で観るのもおもしろいかなとも思いました。

Cさん

私は宮沢りえさんと同世代ですが、ただ、30年前の作品は自分で観に行く事ができる年代ではなくて、実写版を観ていませんでした。当時の映画の宣伝ですとか、TMネットワークさんの歌う主題歌とかをリアルタイムに聴いていましたので、凄く懐かし思い出しながら観ていました。

今回の作品は実写版とは別の物として楽しむ事ができましたし、おもしろかったです。

作品を観終わりました、盛りだくさんな内容でしたが90分でしたので、コンパクトだったなとも思いました。

アニメならではの、音楽にのせて場面を立て続けに流していくような実写版ではできないアニメならではの手法など、そのような所が工夫されているなとも思いましたね。実写版ではなかなかできない事など、アニメの良さが出ていたのかなとも思いました。

楽しめましたし、想像以上の見応えがありました。

Dさん

年齢的に私がアニメを観てもいいのかな、と思ったのですが、観ましたら見入ってしまいましたね。

ネット社会の中でのいろいろな悩みとか、将来の事とかをいろいろと織り交ぜながら、最後はさわやかになるように描かれていたなとも思いましたね。

私が良く行く公園には、高校がいたり、中学生がいたりするのですが、人生を季節に例えますと私は秋から冬に向かってののに、その子たちは5月で、青葉が茂っているような感じだなと良く思います。そんな時期に引きこもっていたり、悩みがあったりしたらもったいないな、と思ってしまいますね。そういう悩める高校生や中学生にも、このような作品を観ていただいて、さわやかな気持ちになってもらいたいなとも思いました。

アニメ作品は、私には縁がないだろうなと思っていましたが、楽しむ事ができました。

Eさん

綺麗な映画だなとも思いましたね。映像が綺麗で、どの場面をみても凄く綺麗で、それだけでも満足した作品でした。

議員の秘書が場面・場面で絡んできていたので、その後どうなるのかと思っていたのですが、最終的には高校生たちの情熱に突き動かされていましたね。影響を受けて、癖のある人も変わっていくのだなと思いました。その携わり方が綺麗だったなとも思いましたね。

いろいろな方に薦めたい、凄くまっすぐで、綺麗ないい作品だなと感じました。

Fさん

原作の本があった事は知っていたのですが、読んだ事はありませんでしたが、今日の作品を観ましてこのような内容なのだなと思いました。

皆さまも話されていましたが、SNSの拡散で知られたくない事が知られてしまう事が実際にあるので、凄く怖いなとも思いましたね。

SNSの拡散による話の展開などの話の進め方が、見事だなとも思いました。

議員の秘書に対する態度について、ニュースなどでも報道されていたのでダブったのですが、議員は、実際にも表と裏の姿があって、態度が違う方もいるのかなとも思っていましたね。

子どもたちの純粋さがわかった作品でした。

Gさん

とても楽しく観ました。アニメーションならではのテンポの良さと、歯切れの良さ、そして、映像もとても綺麗でしたね。音楽も映像にマッチして、この作品のために作られた曲なのだろうなとも思いました。

現在の情報化社会の事も織り込みながら、若者の純粋さや大人になりきれない葛藤を描いていましたね。高校生は小学生から見ると大人で大人から見ると子どもに見えるなかで、自己主張していくという事が印象的に残っています。

とてもおもしろかったと思います。

Hさん

私もとてもおもしろかったと思いました。

私は、今回の作品を観るにあたり、宮沢りえさんが出演された実写版をレンタルで借りて観てきたのですが、実写版は中学1年生という設定でかなり無理があるように感じましたが、この作品は、高校2年生という設定で無理が無く、更に見事に現在版として蘇らせているなとも思いましたね。

登場人物が自分と向き合っていくシーンは、自分の高校生の頃であったり、自分の子どもの姿に重ね合わせて胸が苦しくなったりしましたね。1人一人がそれぞれの特技を活かして、大人と対抗するのですが、そこが気持ち良かったです。

建物のスケール感ですとか、実写であると描く事が出来ない暗いシーン、アニメ作品でしかできないような行動なども含め、アニメ作品ならではの演出がされているのが、良かったと思いました。

Iさん

楽しくておもしろくて、観ながら拍手をしたり、応援したりしていましたね。

子どもたちが個性的で、うまく子どもたちの代表を演出してくれていたなとも思いました。

現在起こっている事を数多く盛り込んでいるなとも思いましたね。ここまで織り込んでいるのかと思いつつ、心地よく観る事が出来ました。

今日たまたま、原作者の宗田さんがテレビに出演されていたのを観たのですが、30年前の実写版作品もありましたが、映像も綺麗ですし、アニメ作品の方がいいかなとも思いましたね。

できれば、今の子どもたちにこの作品を観ていただきたいと思いますね。この作品は「自分の中にあるものを活かしていくのだよ」、「怖がらず前に進んで行くのだよ」などと激励に使えるのではないかなとも思いました。親としては、子どもが暴れる事は複雑な気持ちになりますが、やはりこの作品は親子でも観ていただきたいなとも思いましたね。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・宮崎駿さんの作品に絵が似ているように思えました。監督は宮崎駿さんに影響されているのかなとも思いましたね！

・この作品の映像は新海監督の作品よりも落ち着いているように思えましたね！

・さびやほこりなど細かな所まで描き込んでおり、凄いなとも思いましたね！

・夕張市が撮影協力になっていましたね！

・中国系のアニメーターの方が多く参加されているのだなと思いましたね！

・主人公の守くんが世界史に凄く詳しくかったですね！

まとめ

この作品は、昭和60年に宗田理により書き下ろされたベストセラー小説を原作にしており、昭和63年には、宮沢りえ主演で実写映画化しています。原作は、今でも子ども向け小説のランキングで30位以内に入っている状況です。

作品としましては、30年前の実写版作品のテイストは残しつつも、今風にしっかりアレンジをし、現在ならではの問題などもしっかり織り込まれています。また、アニメ作品の利点を生かしながら、伏線も多く仕込まれており、それが一つにまとまるような演出をしており、およそ90分という時間の中に多くのエピソードを入れ込まれています。声の出演は、北村匠海と芳根京子という今人気の二人が主役の二人を担当しており、声優の方たちにも引けを取らない演技をしています。

大使の方からも、高校生たちの心の動きや、青春を感じた、純粋さを感じたという意見が多く出されており、その年齢ならではの躍動感や爽やかさなどを感じます。

中高生の方はもちろんですが、昔中高生だった方にも是非観ていただきたい作品です。

今、10歳代の方も、過去に10歳代でした方もその年代の物語を感じていただければと思います。

映画は是非、劇場の大スクリーンでご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をする事が出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

送信

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)